



寄居町長 花輪 利一郎氏

町長のメッセージ

寄居町では、町が目指す将来像を「可能性^{むげんだい}∞ 笑顔満タン よりいまち」とし、町民の皆様、地域団体、民間事業者など、多彩な主体との協働による「共創の姿勢」を大切にしまちづくりを進めております。

コロナ禍の長期化により困難な状況が続いておりますが、感染防止対策、生活支援対策、地域経済対策など新型コロナウイルス感染症対策を最優先事項として取り組むとともに、「第6次寄居町総合振興計画」に基づき重要プロジェクトを着実に展開し、未来へ向け、町民の皆様と共にしっかりと歩んでまいりたいと考えております。

はじめに

寄居町は、埼玉県の北西部、都心から70km圏に位置している。東西約13.7km、南北約12.0kmで、面積は64.25km²、人口は3万人を超えている。

寄居町は、関越自動車道花園ICを玄関口として、国道140号と254号が町内を縦横に走るほか、寄居駅を結節点として東武東上線、JR八高線、秩父鉄道が接続しており、町内に9つの鉄道駅を擁する交通の要衝地となっている。

町の中央を荒川の清流が流れ、豊かな水と緑に恵まれた寄居町は、1985年に「風布川・日本水」が環境庁（現在の環境省）の「名水百選」に、1995年に町全域が国土庁（現在の国土交通省）の「水の郷百選」に、「日本水の森」が林野庁の「水源の森百選」にそれぞれ認定された、全国でも数少ない「水の三冠王」の町として知られている。



現在整備中の「寄居駅南口駅前広場」と「中央通り線」

寄居町中心市街地活性化基本計画

寄居駅南口の中心市街地は、かつての秩父往還の街道筋にあり、江戸時代から物資の集散地として栄えた。また昭和初期には、中心市街地南側の玉淀河原は、荒川が造り出した奇岩・絶景の景勝地として多くの観光客で賑わい、荒川沿いには著名人の別邸・邸宅が多く立地した。

しかし、昭和40年代以降、中心市街地の人口は減少に向かい、唯一の大規模小売店が閉店したこともあって、空洞化が進んできた。こうした状況を打破するため、町は2017年度に寄居町中心市街地活性化基本計画を策定した。町と寄居町商工会、民間事業者等で組織した中心市街地活性化協議会を中心に、老若男女問わず多くの人が暮らしやすい街にするため、コンパクトな地域として中心市街地の整備を進め、賑わいの創出に努めている。

寄居町全体の活力創造と広域交通・観光の拠点として、「歩きたくなる・歩いてお得なまち」を目指すという基本方針で進められている中心市街地活性化事業の一つが、寄居駅南口駅前拠点施設の建設である。現在、寄居駅前には来訪者が自由に滞在できる施設がなく、「観光案内や休憩ができる施設が欲しい」といった声がある。このため、寄居の顔となり、町の歴史や観光、特産品などを来訪者が知ることができ、誰でも自由に滞在することができる、来訪者と地元の人たちが交流する拠点となるような施設の建設を予定している。

寄居町概要

人口(2021年12月1日現在)	32,560人
世帯数(同上)	14,738世帯
平均年齢(2021年1月1日現在)	50.5歳
面積	64.25km ²
製造業事業所数(工業統計)	79所
製造品出荷額等(同上)	3,916.3億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	222店
商品販売額(同上)	372.4億円
公共下水道普及率	25.0%
舗装率	53.4%

資料:「令和2年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- 東武東上線 寄居駅、玉淀駅、鉢形駅、男衾駅、みなみ寄居(ホンダ寄居前)駅
- JR八高線 寄居駅、折原駅、用土駅
- 秩父鉄道 寄居駅、桜沢駅、波久礼駅
- 関越自動車道 花園ICから町役場まで約5km

★「みなみ寄居(ホンダ寄居前)駅」開業

本田技研工業株式会社(ホンダ)は、2013年7月から、埼玉製作所狭山工場に加えて、寄居町南部の郊外に建設した寄居工場でも操業を始めたが、寄居工場の従業員や来訪者の多くは、自家用車を利用するか、小川町からの送迎バス等に頼らざるを得ず、近年は工場にアクセスするための道路の渋滞なども問題となっていた。

こうしたなか、ホンダが東武鉄道に対して設置を要請してきた新駅「みなみ寄居(ホンダ寄居前)駅」が、2020年10月31日に開業した。寄居工場の東側に隣接するこの駅は、東武東上線としては39番目の駅で、2002年に滑川町に開業した「つきのわ駅」以来18年ぶりの新駅である。

駅名は、寄居町の南部に位置することから「みなみ寄居」とされたが、寄居工場の関係者が駅利用者の多数を占めることに加え、ホンダが駅舎建設費用を全額負担したこともあり、副駅名として「ホンダ寄居前」が添えられた。

ホンダは、2021年度を目途に生産機能を狭山工場から寄居工場へ集約させることを発表している。今後、寄居工場への交通アクセスのよい場所に、関連企業等の工場や事務所、倉庫などの集積が進んでいけば、これら工場等の寄居町への立地も増え、あわせて相当数の新規雇用が生まれるとみられることから、町の産業の今後ますますの活性化が期待されている。

★寄居町まちなか住宅取得支援補助金

寄居町の人口は、近年減少傾向をたどり、2025年以降、人口が3万人を下回っていくとともに、少子高齢化が急速に進展すると予想されている。町は、人口減少や少子高齢化の進展を緩やかにすることを目指し、町民の結婚・出産・子育てを取り巻く環境や転入・転出の動向の改善など、居住地としての魅力づくりのための様々な施策を展開している。

その一つが寄居町まちなか住宅取得支援補助金で、子育て世帯や40歳未満の方が、中心市街地の区域内に新築住宅または中古住宅を取得・登記した際に、それぞれ100万円と50万円の補助金を支給するものである。本制度の期限は2022年3月18日までだが、利用者はフラット35地域連携型の借り入れにあたって、優遇金利の適用も可能なので、興味のある方は検討してみてもいいだろう。

(井上博夫)



東武東上線みなみ寄居(ホンダ寄居前)駅